医療連携ニュース

Medical Liaison News

No. 38

発行日：2024年4月25日

発　行：地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

患者支援センター長　就任のご挨拶

副院長　臼井 規朗

地域の医療機関の皆さまには、患者さんのご紹介や在宅医療、移行期医療といった地域医療連携において、日頃より多大なご支援・ご協力をいただきありがとうございます。今年度より鈴木前センター長の後を引き継ぎ、患者支援センター長として地域の医療機関の皆さまと当センターとの橋渡し役をさせていただくことになりました副院長の臼井規朗です。

患者支援センターは当センターの患者さんを様々な面から支援する窓口であり、在宅医療や移行期医療を推進するという重要な役割を担っています。昨年4月には政府に「こども家庭庁」が創設され、院内には「大阪府医療的ケア児支援センター」が開設されて、ともに1周年を迎えて医療的ケア児を支援する体制が強化されつつあります。また、当センターでは医療的ケア児のための在宅療養手帳アプリも利用開始されています。一方、地域診療情報連携システム（南大阪MOCOネット）は開設後6年目を迎え、すっかり定着した感があります。患者支援センターは、今後も在宅医療や移行期医療のいっそうの推進に向けて邁進したいと考えています。

いよいよ今年度からは、医療機関や医師にも「働き方改革」が求められるようになりますが、当センターでは多くの診療科で「宿日直許可」を得ており、勤務の効率化やタスクシフトを進めて、地域の医療機関の皆さまにご迷惑をおかけしない体制を準備しています。今後も地域医療に貢献すべく努力をしてまいりますので、これまで同様ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

副院長　就任のご挨拶

副院長　和田 和子

地域の医療機関の皆さまには、平素より患者さんのご紹介ならびに受診後、退院後のフォローアップにあたり、大変お世話になっております。この度、副院長を拝命いたしました、和田でございます。就任にあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

私は、院内におきましては、医療安全管理と患者サービス向上推進を担当いたします。 当センターの使命は、大切なお子さん、妊婦の皆さんが安心して最善の医療を受けられる環境を提供することであり、そのためには常に医療の質と安全性を追求することが欠かせません。インシデントが発生した際には、徹底的な原因分析を行い、同様の問題が再発しないよう改善に努めます。また、患者さんからの貴重なご意見を真摯に受け止め、それをもとにサービスの向上に取り組みます。

また、常に地域の皆さまの声に耳を傾け、地域に根ざした医療サービスの提供に努めます。地域の皆さまに愛され、信頼される病院であり続けるために、一層の努力を重ねてまいります。ご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

基　本　理　念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

研究所

このたび、新研究所長として道上敏美が着任いたしました。

当研究所は、わが国最初の母子医療に関する本格的研究機関として1991年に設立されました。出生数や小児人口が減少している現状において、母子に関する疾病の病態解明や治療開発はますます重要になってきています。

当センターの病院部門や地域医療機関の皆さまとの連携のもと、疾患指向性研究を推進し、臨床に還元することをめざします。どうぞよろしくお願いいたします。

（研究所長 道上 敏美）

新生児科

新生児科部長を拝命いたしました望月成隆です。

2004年の入職以後、新生児搬送やNICUでの集中治療、発達フォローなどに従事する一方、感染対策、災害対策、小児在宅医療支援なども行なってまいりました。

今後も新生児医療の情報発信を幅広く行うと共に、引き続き地域の皆さまとの連携を大切にしていきたいと思います。 どうぞよろしくお願いいたします。

（新生児科 部長 望月 成隆）

小児神経科

小児神経科の柳原と申します。

小児神経科は当センター開院当初からある伝統的な科です。以前はてんかんや脳性麻痺など当科特有の疾患がメインでしたが、最近は医療の進歩により、胃瘻・気管切開・人工呼吸器など高度な医療ケアが必要とされる患者さんを包括的に診療したり、原病悪化時に低酸素性脳症となった患者さんを元科と一緒にフォローしたりと、院内や地域とのチーム医療の役割も増加しています。 今後もよろしくお願いいたします。

（小児神経科 主任部長 柳原 恵子）

小児外科

6年ぶりに大阪母子医療センターに戻ってまいりました。当センターは、高度な医療を提供できる全国でも著名な小児施設であります。患者さんのQOLの向上を追求し、ご家族にも満足いただける小児外科医療を追求してまいります。

また、小児外科は多くの科によって支えられています。地域の病院や他科・多職種との連携は特に重要です。今後とも一層緊密な連携を保ち、小児医療の発展に貢献しつつ、当センターの発展に寄与していく所存です。

（小児外科 主任部長 奈良 啓悟）

術後疼痛管理チーム

新生児や乳児は、成人よりも痛みに敏感であることが示されています。小児期の痛み体験が、その後の身体的機能や社会的・心理的な健康に長期間にわたって悪影響を及ぼすため、医療行為に伴う痛みの予防や軽減、積極的な対応が重要です。

小児に限らず、帝王切開術後の疼痛への対策も重要であり、適切な疼痛管理は産後うつ病発症の抑制に貢献できる可能性があります。

現在、当センターでは麻酔科医、看護師、薬剤師が術後疼痛管理チームとして協働しています。手術前には疼痛管理計画を立案し、患者さんとご家族へ説明し、安心して手術を受けていただくことを目指しています。

また、手術後の疼痛を評価し、合併症の発生有無も確認しながら、術後の早期回復の一助となるよう活動しています。

(麻酔科 主任部長 橘 一也)

医療的ケア児支援センター 活動報告 2

2023年4月末に開設された、大阪府医療的ケア児支援センターの活動についてご報告します。

■圏域会議

大阪府を3圏域（北部・中部・南部）にわけ、地域ごとの課題について話し合いました。2月には3圏域合同の勉強会を行いました。市町村担当者、保健所、医療機関等から140名前後の方にご参加いただき、事後アンケートでも概ねご好評を頂きました。

■窓口相談件数

2月までの約10ヶ月でのべ相談者数（実数）は482人、のべ相談件数は2040件でした。
相談内容は多い順に ①訪問看護の利用 ②短期入所の利用 ③在宅移行に関するサービス利用について でした。

■その他

各市町村における協議会への参加や講演を行いました。次年度も連携促進や家族支援のための活動をさらに行う予定です。
引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(大阪府医療的ケア児支援センター長 望月 成隆)

「つながる胎児エコーみらいの会 第50回記念講演会」を開催しました(2023. 12. 16(土))

先天性心疾患～胎児期から成人期まで～」をテーマに、現地参加50人、Web175拠点と多数の皆さまに参加していただきました。

総合討論では、一次施設より妊娠中期までに胎児所見を見つけた際の対応、当センターからは出生前から後のチーム医療について報告後、様々な課題について議論を深めることができました。

当センターでは、胎児から成人までの（妊娠を含む）心疾患に幅広く対応しておりますので、お気軽にご相談ください。

(小児循環器科 石井 陽一郎)

◀◀◀ 本会は毎月第3水曜日の１９時より開催しています。左記のQRコードより参加メールをお待ちしております。

府民公開講座第15回室堂セミナー「無痛分娩を正しく学ぼう！」を開催しました(2024. 3. 9(土))

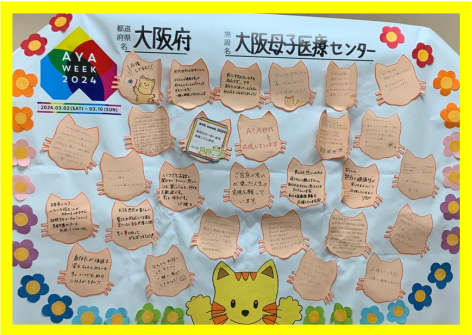
当センターでは、定期的に府民公開講座を開催しています。

今回は、「無痛分娩」をテーマにし、正しい情報をお伝えするとともに、妊婦さんが満足できるお産の方法を選択するための一助となればと企画しました。

対面で 27名 オンラインで 104名
合計 131名 の方にご視聴いただきました。

後日、ホームページに掲載予定です。
是非ご覧ください。

今年もAYAWEEK2024に参加しました!!



当センターには、多くの小児がん患者、小児がん経験者が通院しています。そのため、AYAWEEK2024の 「知ろう、一緒に。誰かが、誰かの勇気になる。AYA世代の“がん”について想う1週間」 のコンセプトに賛同して、応援フラッグとオンラインイベントを開催しました。

オンラインイベントでは、**「小児AYA世代がん経験者のアピアランスケアについて考える」**をテーマに、ひといろプロジェクトさん、チャーミングケアさん、資生堂ジャパンさんにご協力いただき、有意義なイベントとなりました。

外来と病棟をつなぐホスピタルアート

ひといろプロジェクトさんのご協力のもと、病棟と外来に葉っぱと動物でつながるホスピタルアートができました

3～5階の6病棟に入院中の子どもたちとご家族、外来通院中の子どもたち、医療従事者が参加し、アーティストさんが作成した木の葉っぱに色をつけました。

みんなで描いた個性豊かな葉っぱは全部で265枚。病棟はそれぞれの葉っぱの思いを小鳥がつなげていけるようにイメージされた壁画デザインになっています。

小児外来スペースは**「めぐる葉っぱとみんなのなかま」**と題してかわいい動物たちも顔をだしています。

かくれている動物のなかまを見つけられるような工夫もされていて、子どもたちの遊び心をくすぐるアートになっています。

もこもこカフェテリア再開しました

長期入院中の子どもとご家族に、コース料理、鍋料理、握り寿司などのごちそうでおもてなしをしています。

日頃、食欲が減退している子どもたちも、ご家族と一緒に満面の笑顔で「おいしい!」と会話が弾みます。

入院中はご家族との食事の機会が制限されますが、月に1度の**「もこカフェ」**が患児とご家族の楽しい食体験の場となっています。

交通のご案内

診 療 時 間：平日 9 時～17時30分

予約受付時間：平日 9 時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪母子医療センター　患者支援センター
〒594-1101　大阪府和泉市室堂町840
【初診専用】　TEL：0725-56-9890（直通）
FAX：0725-56-5605
【そ の 他】　TEL：0725-55-3113（直通）
FAX：0725-56-7785
【医師相談窓口】 E-mail：chiren@wch.opho.jp

医療対象者ホットライン
（※24時間受付直通）

PICUホットライン
0725-56-1070

小児がん・白血病ホットライン
0725-57-7677

心疾患ホットライン
0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。